

平成25年度NPO等による文化財建造物の管理活用事業 報告協議会

平成26年3月13日

組織間連携と支援ネットワーク構築による 文化財保護の新たな体制づくり

【実施団体】 公益社団法人 熊本県建築士会

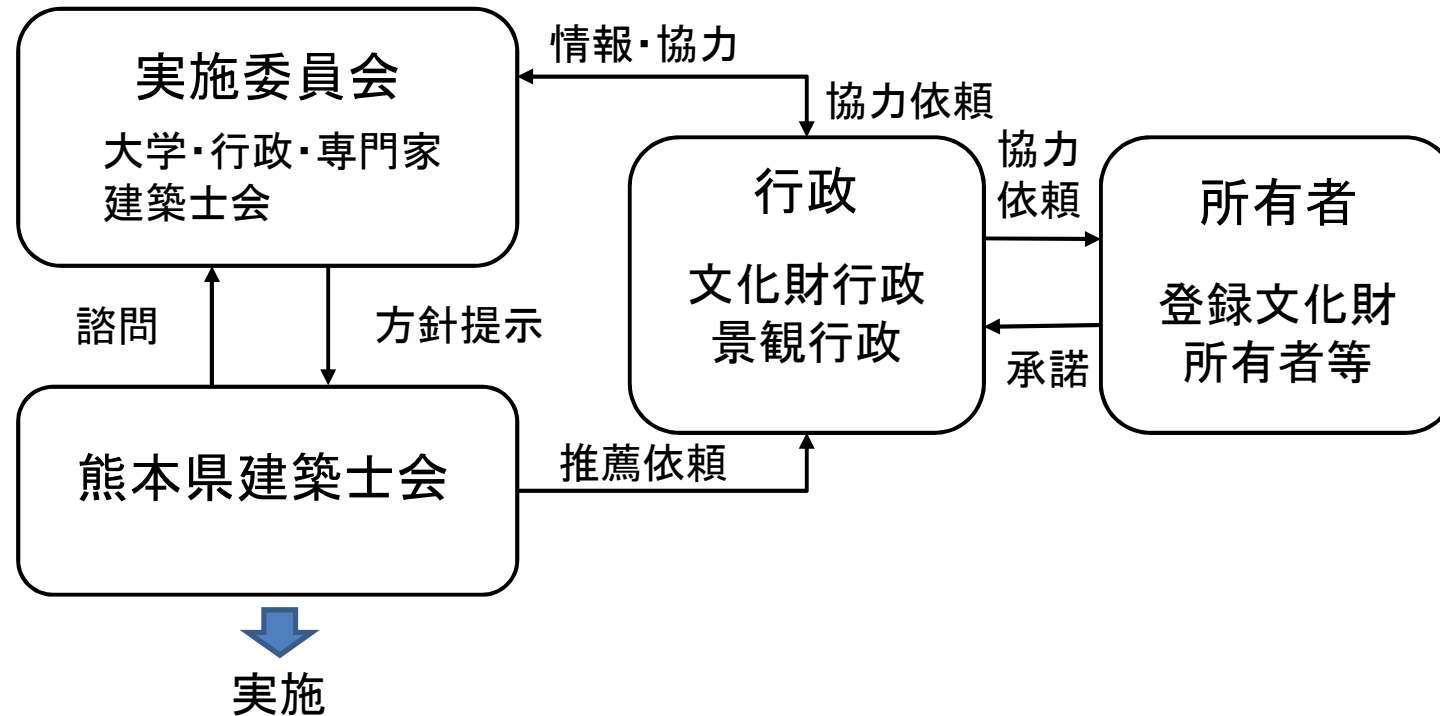
【事業経費】 1, 595, 000 円

1. 事業の目的

今日、循環型の時代趨勢にもかかわらず、各地で文化財建造物の毀損、滅失が後を絶たない。この現状に歯止めをかけるためには、文化財建造物についての正しい識見の共有、管理活用の適正な知識と技術の普及による改善が必要である。このためには所有者と行政、適正な能力を有する専門家の連携により管理活用の新たな体制を創出し、文化財建造物の適正な維持管理と積極的な活用をはかる仕組みを構築する必要がある。本事業では公社)熊本県建築士会の文化財建造物保全活用専門家(ヘリテージマネージャー)制度を活用した適正な人材と、行政、所有者との三者連携づくりとさらに地域を巻き込んだ多元的支援ネットワークの構築による地域に根差した文化財保護の新たな体制の創出と実践をめざす。

3. 事業活動の内容

1) 実施体制



2) 実施プロセス

【活動-1】出前講座→【活動-2】掘起し調査→課題の整理→
→今後の取り組み(所有者の集い設立)の検討

【活動-1】文化財建造物の発掘・管理活用のための出前講座

県内3地域において発掘・管理活用についての出前講座を開催した。地元行政、所有者(登録有形文化財、及び候補の)、支援する専門家(ヘリテージマネージャー)を対象としてワークショップ形式の座学及び現場実習を行うことで、地元文化財建造物に対する共有意識を築き、それぞれの意向や方針などの相互理解を深め、連携づくりの契機とする。

(1) 県北地域

9月15日 会場:山鹿市 天聴の蔵

①座学 参加者:31名

(基調講演):熊本大学工学部教授 伊東龍一氏

「みんなで守ろう、活かそう、地域の宝」...

(発表)・所有者の思いと抱える問題点

②現場実習 (百花堂、大森家住宅、天聴の蔵)

参加者:27名

・所有者の思いと抱える問題点、活用について学ぶ



座学



意見交換



現場実習

(2) 県南地域

9月21日 会場:人吉市 老神会館

①座学 参加者:28名

(基調講演):熊本大学工学部教授 伊東龍一氏

「みんなで守ろう、活かそう、地域の宝」・・・

(発表)・所有者の思いと抱える問題点

・活用団体による事例発表

②現場実習 (堤家住宅) 参加者:25名

・所有者の思いと抱える問題点、活用について学ぶ



座学



現場実習

(3) 県央地域

10月5日 会場:熊本市 川尻公会堂

①座学 参加者:51名

(基調講演):熊本大学工学部名誉教授 北野 隆氏

「みんなで守ろう、活かそう、地域の宝」・・・

(発表)・所有者の思いと抱える問題点

・活用団体(地元自治会)の思い

②現場実習 (瑞鷹酒造、今村家住宅) 参加者:45名

・所有者の思いと抱える問題点、活用について学ぶ



座学

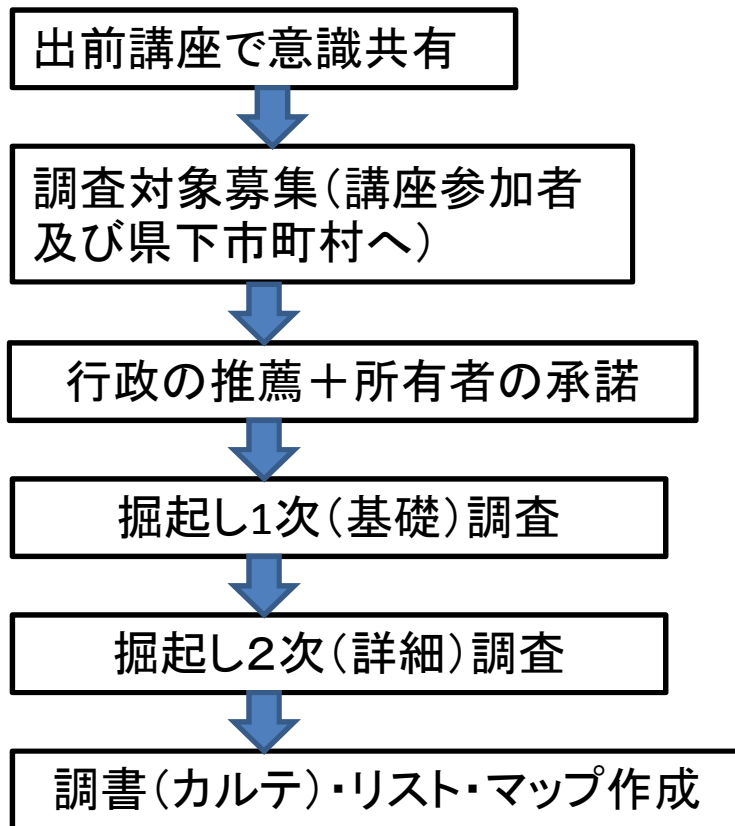


現場実習

【活動-2】文化財建造物の掘起し調査

出前講座で築いた三者連携を実効的、持続的なものとするために連携を活用した地域の文化財建造物の把握と情報の共有化を図る取り組みを行った。

【実施の手順】



文化庁「平成25年度NPO等による文化財建造物の管理活用事業」
「組織間連携と支援ネットワーク構築による文化財保護の新たな体制づくり」
に係る「文化財建造物の掘起し調査」
実施要項

熊本県においては、循環型の時代趨勢にもかかわらず、文化財建造物の毀損、滅失が後を絶ちません。この現状に歯止めをかけるためには、文化財建造物についての正しい識見の共有、管理活用の適正な知識と技術の普及が必要となります。このためには所有者と行政、適正な能力を有する専門家の連携と相互共助による管理活用のための新たな体制を創出し、文化財建造物の適正な維持管理と積極的な活用をはかる仕組みを構築する必要があります。

この度、文化庁「NPO等による文化財建造物の管理活用事業」の委託事業として、文化財建造物の所有者、地元所管行政、支援する専門家間に文化財建造物に対する共有意識を築き、それぞれの意向や方針などの相互理解を深め、連携づくりの契機とする目的で、県下の県北、県央、県南の3地域において、「文化財建造物の発掘・管理活用のための出前講座」を行いました。次の段階として連携を活用した支援体制を実効的で持続的なものとするために、地域の文化財建造物の把握と情報の共有化を図る目的で「文化財建造物の掘起し調査」を下記要領にて実施します。

1. 主催 (公社) 熊本県建築士会
2. 協力 熊本県教育庁文化課、球磨地域文化財広域連携協議会、県内市町村教育委員会
3. 調査日程(予定) <1次調査>
平成25年10月27日(日) 10:00~16:00
平成25年11月4日(月・祝) 10:00~16:00
平成25年11月10日(日) 10:00~16:00
<2次調査>
平成25年11月24日(日) 10:00~16:00
平成25年12月1日(日) 10:00~16:00
※2次調査の対象建物は1次調査の対象建物の中から選定します
4. 調査場所 <1次調査> 県北、県央、県南 各12か所程度 計36か所程度
<2次調査> 県北、県央、県南 各4か所程度 計12か所程度
5. 調査内容 <1次調査> 基礎調査(概略平面図作成、写真撮影、概要聞き取り)
4か所/日(30分程度/1か所)
<2次調査> 詳細調査(平面図、断面図作成、調書)
2か所/日(2~3時間程度/1か所)
6. 調査員 熊本県建築士会ヘリテージマネージャー(文化財建造物保全活用専門家)
7. 調査費用 無料 ※調査に要する経費は、文化庁事業業務委託費による。
8. お問い合わせ先 (公社) 熊本県建築士会事務局
TEL:096-383-3200 FAX:096-383-1543
E-mail: LEB03540@nifty.ne.jp

(1) 第1次調査

(内容) 基礎調査 (概略平面図作成、写真撮影、概要聞き取り調査)

日程	調査地域・件数
9/22, 23	県央 1
9/29	県南 1
10/27	県北 4、県南 1
11/4	県央 2
11/10	県北 2、県央 2、県南 3
11/12	県央 1



(2) 第2次調査

(内容) 詳細調査 (平面図、断面図、調書作成用実測)

日程	調査地域・件数
11/24	県央 2
12/1	県北 2、県南 1
12/8	県北 2、県南 1
12/21	県北 1
12/23	県央 2



4. 事業の成果

(1) 文化財建造物の発掘・管理活用のための出前講座

所有者、行政、支援者はそれぞれの立場で問題意識が明確。話し合う機会があれば保全意識の共有化は容易。現場見学で実例に触れながら議論することの有効性も確認できた。今回事業の目的である所有者、行政、支援者の連携づくりは、今回の「出前講座」での意識共有のプロセスを経ることで可能になることが確認できた。



(2)文化財建造物の掘起し調査

調査は出前講座で築いた連携により調査の趣旨がよく理解されており円滑に作業が進んだ。また行政間ネットワークによりこの事業についての周知が図られたため、出前講座に不参加であった地区からも調査依頼があった。

調査対象は県下3地域の代表的な地区の未指定の建造物だが、いずれも地域の風致を連綿となしてきたものとなった。

リスト

●歴史的建造物リスト

平成26年 2月 1日現在

番号	指定種別	名称	所在地1	所在地2	位置		構造及び形式	建造年	改修履歴	調査状況	所管行政	管理者	緊急連絡先及び担当者	防災地域区分	備考	
					緯度	経度										
1	未	百花堂	山鹿市	山鹿1371	33.01799	130.68628	木造2階 切妻平入り様瓦葺き	文久3(?) 1863			山鹿市					1
2	未	天聴の蔵(大蔵)	山鹿市	山鹿1392	33.01813	130.68813	木造2階 切妻土蔵造り様瓦葺き	大正7 1918								
3	未	大森家住宅	山鹿市	山鹿51	33.01363	130.68965	木造2階 切妻、増築部寄棟、入母屋様瓦葺き	文久2 1862								
4	未	米民文庫(吉岡家住宅)	山鹿市	鹿本町米民2034	32.99670	130.72631	木造2階	明治13~18								
5	未	宅野家住宅	阿蘇郡	南小国町赤馬場981	33.10703	131.07538	木造2階 切妻 調位置置屋根	大正初期								
6	未	旧神山学院	阿蘇市	一の宮町宮地3204	32.95119	131.11541	木造平屋 切妻様瓦葺き	昭和12 1937								
7	未	御船町旧肥後銀行	上益城郡	御船町御船805	32.71068	130.79717	木造2階 寄棟様瓦葺き 洋小屋 一館和小屋	大正10?								
8	未	旧御船裁判所	上益城郡	御船町御船851-7-1	32.70768	130.79976	木造2階 寄棟様瓦葺き 和小屋	明治31 1898								
9	未	有馬家住宅	上益城郡	益城町堀川12129	32.75485	130.81314	木造2階 入母屋様瓦葺き 和小屋	文久3 1863								
10	未	旧出水村役場	熊本市中心区	国府2丁目13-11	32.78765	130.73051	木造平屋 寄棟様瓦葺き 洋小屋	大正6以降								
11	未	川尻公会堂	熊本市南区	川尻4丁目8-25	32.73858	130.68024	木造平屋 入母屋様瓦葺き 洋小屋	昭和5 1930								
12	未	三賢堂	熊本市西区	島崎5丁目32	32.81222	130.67893	鉄筋コンクリート造2階 延面積百十三坪	昭和11 1936								
13	未	高月家住宅	宇土市	門内町47	32.68241	130.65965	木造平屋 入母屋様瓦葺き	文政13 1830								
14	未	旧佐伊津中学校	天草市	佐伊津町5933	32.49984	130.19211	木造平屋 切妻様瓦葺き 洋小屋	昭和22 1947								
15	未	松本家住宅	天草市	倉岳町棚底1689	32.41215	130.33951	木造平屋 寄棟様瓦葺き	大正7頃 1918								
16	未	釜田醸造所	人吉市	鍛冶屋町17-2	32.21632	130.76067	木造2階 切妻様瓦葺き									
17	未	立山商店	人吉市	鍛冶屋町43	32.21646	130.76064	木造2階 切妻様瓦葺き									

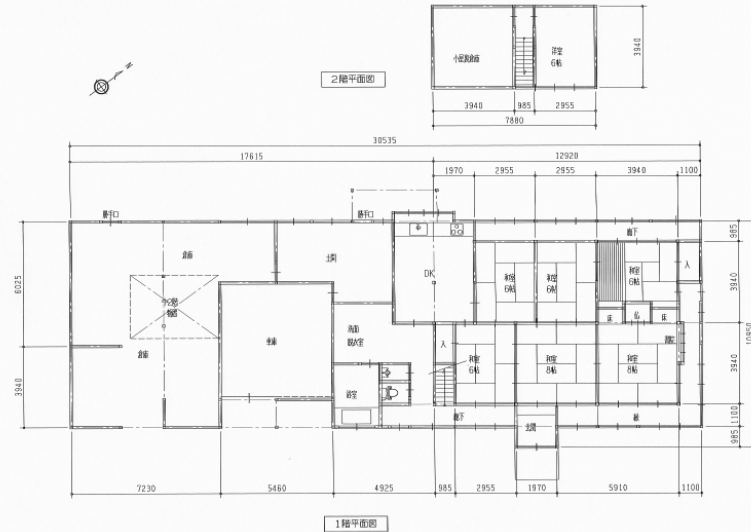
マップ



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

調査記録(調査票・図面)

ヘリテージ調査票				
事業名	文化財建造物掘り起し調査		記録者	畑元正司
名称	現況名	松本家	調査者	畑元正司・鈴木高一・山下大輔
	原名	松本家	調査日	H25.11.10
	横番号	1	用途	現況 住居・農業用倉庫
	棟数	1	築造時	住居
所在地	天草市倉岳町柳底農川 1689		所有者	松本喜和 (建築主との関係) 孫
築造年(根拠)	大正7年頃(口伝)		管理者	松本喜和 (所有者との関係) 本人
増改築年(根拠)	昭和36年頃(記憶)		連絡先	0969-64-2757
建築主(根拠)	(例 棟札)	設計(根拠)	(例 棟札)	施工(根拠)
調査方法	聞き取り	所有者の聞き取り	文献	
建物概要	実測	現場実測	その他	
構造規模	(現況)	木造2階建	(築造時)	木造平屋中2階建
形式	(現況)	在来工法		
床面積	(現況)	342㎡	(築造時)	124㎡(推測)
仕上等	地盤・基礎	礫混じり砂質土石		
	軸部・架構	和小屋在来工法 3段梁		
外部	屋根	和型セメント瓦		
	外壁	サイディング		
	軒天	化粧野地板、化粧垂木		
	その他特徴	柳底地区特有の防風石垣で東・北・西の3方が囲まれている。		
内部	床	畳		
	壁	ジュラク		
	天井	合板		
	建具	障子・襖		
	その他特徴	古い柱や梁を合板で覆ってある。		
備考	増改築の為、構造体のみが残存する 床下に芋がま有り。中2階の床板有り。			
位置図	所在地	外観写真		



松本家 平面図 S=1/100



南側立面図



東側立面図

松本家 立面図 S=1/100

5. 事業実施後の課題

今回の取り組みで明らかになった課題を以下にあげる。

- ① 地域の行政において担当職員の不足と、文化財の管理活用に対する意識の格差により、連携の仕組みづくりにも温度差がある。
- ② 事前の準備、周知を図るなど計画的に行う必要がある。
- ③ 登録文化財について管理活用に関する基本的な情報が所有者に正確に伝わっていない。
- ④ 所有者の保全意識は高く、なんとかしたいと考えているが、適正な相談窓口がない。
- ⑤ 文化財未指定の歴史的建造物について把握がなされていない。(専門の人材不足が要因)
- ⑥ 調査や管理活用の助言ができる専門家(ヘリテージマネージャー)の数が地域毎にまだ不十分。地域に根付いたきめの細かい支援の仕組みづくりには、さらに人材の継続的な育成が必要。

6. 今後の展開

今回の取り組みをさらに実効性のあるものとするために以下の取り組みを展開する。

- ① 県下に連携の仕組みを普及するため出前講座の開催場所を増やし、かつ継続的に開催し、草の根的に所有者、行政そして支援専門家の参加を促す、新しい形の三者連携の拠点となる「文化財建造物所有者の集い」の創設
- ② 地域間連携を促進することにより広域の支援体制を築く。
- ③ 支援できる専門家を地域毎に持続的に確保する計画的な人材育成。
- ④ 調査で把握した情報は共有可能な形式でデータベース化を図り、持続的に管理する体制を整備することで、日常の管理活用だけでなく広域災害時の状況把握や復旧支援にも役立てる。

文化財保護の新たな体制

